薬の伝言板

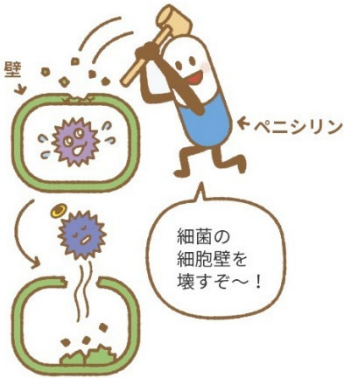
抗菌薬 ～本当にその抗菌薬、必要ですか～

No.339　2026 年 2 月
丸子中央病院　薬局

「かぜっぽいな。お医者さんで抗菌薬（抗生物質）をもらって早く治そう…」
そんなふうに思ったことはありませんか。ほとんどの風邪やインフルエンザは ウイルス が原因とされています。抗菌薬は 細菌 に効く薬なので、ウイルスが原因となる感染症には効果がなく、早く治ることもありません。あなたは抗菌薬の知識、正しく理解できていますか…？

「抗菌薬」はどんな薬？

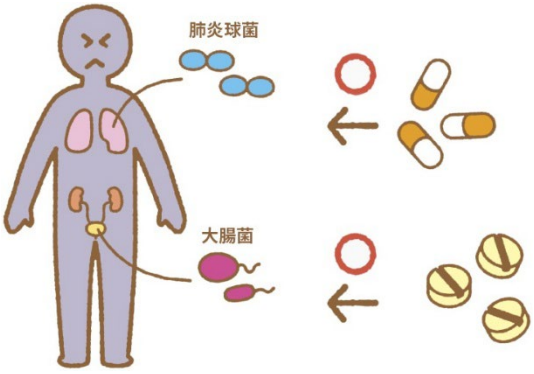
抗菌薬（抗生物質、抗生剤）とは「細菌」を壊したり、増えるのを抑えたりする薬のことを指します。抗菌薬は細菌の構造や増えていく仕組みのどこかを邪魔して効果を発揮します。たとえば、代表的な抗菌薬であるペニシリンは細菌の細胞壁の合成を邪魔します。
インフルエンザウイルスやコロナウイルスのような「ウイルス」には、細菌が持つような構造や仕組みがありません。抗菌薬が作用する場所がないから、抗菌薬は「ウイルス」に対しては効果がないのです。



国立研究法人　国立国際医療研究センター
AMR 臨床リファレンスセンター　ホームページより引用

どんな細菌が感染症を引き起こすの？

細菌による感染症といっても様々な種類があります。感染症がおきた場所が肺であれば肺炎、膀胱なら膀胱炎、という具合です。そして感染症の種類によって原因となりやすい菌は異なります。



国立研究法人　国立国際医療研究センター
AMR 臨床リファレンスセンター　ホームページより引用

一般に、肺炎なら肺炎球菌という菌が原因となることが最も多く、膀胱炎であれば大腸菌が原因となることが多いです。
体のどこに問題がおきているのか、原因となっている菌は何かを考えて治療方針が立てられます。
そのために詳しく症状を聞いたり、検査を行ったりするのです。
飼っているペットや渡航歴などを聞くこともあります。

感染症の原因となっている細菌を調べることは重要なの？

なぜ感染症のおきている場所や原因の菌が大切かというと、それによって使用する抗菌薬が変わってくるからです。どの菌に効くかは抗菌薬によって異なります。抗菌薬を内服する量や１日の服用回数、治療期間も、感染症の場所と原因菌の組み合わせで変わってくるのです。

★抗菌薬が処方されたときに守ってほしいこと

これまで抗菌薬をもらった時、指示された通りに最後まで飲み切りましたか？

実はこれとても大切なことです。抗菌薬の種類によって服用方法が異なります。効果を十分に出すために、１日１回の薬もあれば１日３回の薬もあります。医師や薬剤師の説明をよく聞き、正しく服用しましょう。また感染症の種類によって服用期間が異なります。症状がよくなったからといって途中でやめてしまうときちんと治らない恐れがあります。

また、前に処方された抗菌薬をとっておいて後で飲んだり、他の人に処方された抗菌薬をもらって飲んだりしてはいけません。そもそも原因菌が異なっていれば、抗菌薬が効かないかもしれないし、思わぬ副作用が出てしまう可能性もあるので、絶対にやめましょう。

◎もし、副作用が出てしまったら…？

抗菌薬は他の薬と同様に副作用が出る場合があります。特に多いのは下痢です。これは病原体だけでなく、腸内の環境を保っている良い細菌も抗菌薬が攻撃してしまうためです。抗菌薬を飲み切りたくても、副作用で飲み続けることをためらうことがあれば、無理せず医師や薬剤師に相談することをお勧めします。

抗菌薬は、ウイルスによっておこる風邪には、効果がありません。
「この前風邪をひいた時にはお医者さんが抗菌薬を出してくれたのに…」ということもあるでしょう。
でも、その時風邪が治ったのは抗菌薬のおかげではありません。ウイルスによる風邪、ということであれば、あなた自身の免疫力と休息で自然に治ったと考えられます。
もし、今度お医者さんから「風邪なので抗菌薬はいりませんよ」と言われたら、こんな風に考えてみてはいかがでしょうか。そのお医者さんは、あなたのことやあなたの家族のこと、そしてあなたの地域のことを、より一生懸命に、長い目で考えてくれているのです。

文責 薬局　丸山